土木森林環境委員会　県内調査活動状況

１　日　　時　　令和７年２月３日（月）

２　出席委員（９名）

委 員 長　　桐原　正仁
副委員長　　石原　政信
委　　員　　浅川　力三　　卯月　政人　　小沢　栄一　　向山　憲稔
寺田　義彦　　清水喜美男　　名取　　泰
※卯月委員は午前のみ出席

３　欠席委員　　なし

４　地元議員　　なし

５　調査先及び調査内容

（１）国道４１１号一之瀬高橋２号トンネル建設工事（甲州市）

（峡東建設事務所における説明・質疑）

問）　一点確認させていただきたい。過日、別のトンネルで本来コンクリート厚が３０センチのところ、実際は３センチしかなかったという事案があって驚いた。発注側として、工事の設計図どおり行っているかどうかというチェックは、どのようにしているのか。

答）　トンネル工事においては、以前、委員が指摘したようにコンクリートの厚さが薄いという事案があった。現在、トンネル工事では、まず掘削した断面が規定の寸法で掘削されているかどうか検査し、その中へ今度は型枠を組んでコンクリートを打設していくわけだが、そのコンクリートの厚さも設計どおりの厚さがあるかどうかについて、厚さを測る調査をするための穴を設けたり、また今はレーザー等を使って規定の厚さがあるかどうかを各段階においてチェックし、所定のものが造られているかどうか検査をしている。

問）　過日発生した事案では、それができていなかったと理解しているが、皆さんは発注側として、仕組み上、どのようなタイミングでそのような検査をやることになっているのか。

答）　掘削が終わったタイミング、型枠を設置したタイミング、そしてコンクリートを打設した後のタイミングで検査することになっている。

問）　●●委員は、どうしてそういう事案が起きたのかということを聞きたいと思うのだが、当時はそういう検査がなかったのかとか、いつから検査を行うことになったから問題ないといった答弁

を求めていると思う。

問）　今、●●委員が申し上げたとおりである。発注側として多大なコストをかけて発注するわけだが、その結果を全然チェックしておらず、後でこういうことがあった、気がついたということは、発注側として全然責任が果たされていないと思う。きちんと仕事が設計図どおりに行われていることを確認することは、発注側の最大の責務だと思うのだが、過去にはなぜそういうことが起こってしまったのか。

答）　昔のトンネル建設では、今のように技術が進歩していなかったといったところもあるし、トンネルの全てのところが検査できるものでもなかったので、古いトンネルについてはそういった事象が起きていたと思われる。

問）　このトンネルは、図面だと距離的な違いが分からないのだが、この工事によって、距離や通過時間にどのような効果があるのか。

答）　まず、交通量については、最新の調査センサスによると、１日当たり１，４００台の車が通行している。延長については確認し、後ほど回答をさせていただく。
　費用対効果については、時間短縮、総合の経費の減少、交通事故の減少といった便益を総合的に加味して、工事の費用に対する便益は１．２という数値が出ている。

問）　実際、時間はどれぐらい短縮されるのか。

答）　現状の延長が約２キロである。平面図に書かれているバイパスの延長は１．６キロということで、４００メートルの短縮になる。時間的にはさほど短縮されないが、急カーブや急勾配を解消することによって、通行は大分改善されることになる。

※説明、質疑の後、国道４１１号一之瀬高橋２号トンネルの建設工事現場を視察した。

（２）【意見交換会】

①出席者　　山梨県森林整備生産事業協同組合　青年部の方々

②内　容　　「若者に選ばれる山梨県の林業について」

〇主な意見

委　員）　今日は、若い経営者の方といろいろな意見交換できる機会を大変ありがたく思う。

山梨県は面積の７８％が森林ということで、この森林を有効活用することが、山梨県のすごく大きなテーマである。そういう中、第一線で皆さんに活躍してもらっている。今、どの業界においても人手不足で苦労している。我々は県会議員として今日来ているので、皆さんの立場から今後、生産性を上げるために、こういう分野のデジタル化や機械化、あるいはこういう分野の補助が欲しいというようなものがあれば、聞かせてほしい。

出席者）　機械化するために一番ネックになるのが、機械の設備投資である。高性能林業機械としては、今はハーベスターを導入している。伐倒から造材、つまり規格ごとに丸太を生産して、枝を落としたりもできるという、一番生産性が高い機械であるが、価格が４，０００万円以上になってしまっている。県内では伐期を超えているものが多く、木自体もボリュームが大きいため、小さい機械で仕事をしていると、命の危険にも関わるし、生産性も上がらない。

各社の皆さんも同じように機械を大型化しながら設備投資をしていると思うが、一番ネックになってくるのは、設備投資をして、その金額がペイできるのかどうかというところである。木材価格の低迷もあり、なかなかそこに踏み込めないと思う。そういった補助をもう少し手厚くしていただければ、例えば、新規参入で木材生産のほうに手を伸ばしたり、現状で木材生産をしている会社でも、もう少し規模を大きくできる、生産量を上げられるというところが出てくると思う。機械の設備投資等における補助をもらえると、ありがたいと思う。

出席者）　生産量を上げるということはいいのだが、そうすることによって、また山に戻さなければならない作業が結構増えてくる。その作業が、今はまだ機械化されていないところである。伐採の後にまず地ごしらえという作業があるが、そういうところの機械化や、木を植えた後の下刈りの機械化ができたらよい。ラジコンを使って作業することもあるが、そういう作業の機械化も検討してもらえたらと考えている。まだ普及しておらず、金額も結構高かったりするので、その辺りも補助金があればありがたいと思う。

委　員）　今の工程は何の作業か。

出席者）　木を切った後に根っこを取ったり、次に植えるための準備をする、地ごしらえという作業である。

委　員）　山梨県には森林総合研究所があり大学校もあって、今、スマート農業という研究も進んでいる。そういう意味で、スマート林業も当然やっていると思うのだが、皆さんの方から「こ

ういうところをデジタル化していくと生産性が上がる」など、日頃から思っていることがたくさん頭の中にあると思うのだが、何かそういう研究ネタのようなものがあったら聞かせてほしい。

出席者）　苗木生産をやっている中で、研究所へ要望したいと思っていたのは、今、農薬はがん作用がある等によりいろいろ制限がかかっていて、除草剤が使えない。これまで省力化していたことがそのような制限によって人力作業に戻ったりしている。ヒノキ・杉、カラマツをつくっているが、それらに害を及ぼさず、雑草だけ枯らすような技術などを研究してもらいたい。

出席者）　先ほどのスマート農業、林業の分野の話だが、スマート農業の場合、今、位置情報を基にして自動田植え機といったものも実際に活用が見いだされていると思うが、林業については自動化が引き続き困難な状態にあり、その一番の原因が通信の精度の悪さである。例えば、アイ・コンストラクションと言われる土木系のＩＣＴであれば、携帯電話の電波が微弱でも入れば機械のオートメーションが可能になるが、林業の場合にはその微弱な電波すら入らない地域がかなり多くあるので、オートメーションは非常に難しい。

スターリンクの活用も研究は進んでいるが、あれすらも全国で取り組んでいる方の話を聞くと、従業員のためのＷｉ―Ｆｉになってしまっているようで、なかなかオートメーションに活用できていない。

通信によるオートメーションに加えて、最近はデジタルツインと言われる分野がある。機械をオートメーションで動かすために、一度、機械の目を通して仮想の現実、仮想空間を機械の中でつくり出してからもう一回現実に戻すという形でオートメーションを進めていくが、そのデジタルツインの分野は、まだ国でも林業分野においてはそこまで先に進んでいない。そういった分野を山梨県の森林総合研究所を含めて、もし先走ってやってもらえると、全国にとてもよい事例として報告できるものになるのではないかと感じている。

委　員）　まず、端的に現状を教えてもらいたいが、数年前にウッドショックといって木材価格がかなり上がったと思う。木材価格が上がったほうが皆にとってはいい状況なのかと察するが、現状、林業の環境、経済環境というのはここ５年、１０年で見てどのような状況なのか最初に伺いたい。

出席者）　現状、ウッドショックがあった頃に比べると、また木材価格が大分下がってきてしまっており、それに反比例するように燃料費などの高騰が続いている。先ほど申し上げたように、設備投資する機械もあるし、当然人件費も高騰している中で、正直なところ、にっちもさっちもいかなくなり始めているところである。状況としては、はっきり言ってもう先が見通せない、悪いほうにしか見通せないというのが正直なところである。

委　員）　木材価格について、ウッドショックは一般のユーザーからすると結構ショッキングだったが、あのときに比べると適正価格により近づいたように思うが、林業従事者の皆さんからすると、今の価格自体が下がり過ぎてしまっているので、とにかく上がっていくほうがいいという感覚か。

出席者）　そうである。

委　員）　もう一つ、人材の面について、外国人材や移民を国が進めてもう何年もたっているが、林業界においてどういう状況なのか。また、今後の見通しとして、外国人材については、どのように捉えられているのか伺いたい。

出席者）　私個人としては、外国人技能実習生の話を聞いたこともあるが、ネックとして考えるのは、作業は造林作業がメインになるというところである。造林作業のみではない会社のほうが最近は増えてきている中で、各社で対応が難しいのではないかと思う。造林事業自体はそれほど規模が大きくはなっていない中で、造林作業のみの外国人技能実習生を受け入れても、木材生産活動には参加させられないところがネックと考えており、外国人技能実習生に関しては見送ろうかというところである。

また、技能実習期間の短縮について、今は５年でやっていると思うが、同じ業界であれば３年で事業体を移動できるとなってしまうと、せっかく手塩にかけて育てても、またどこか違うところへ流れてしまうことになり、企業としては痛手を被るというところが考えられる。

委　員）　造林業の造林作業以外には従事できないのか。

出席者）　木材生産の場合、チェーンソーや刈り払い機を使用した作業、地ごしらえといった作業に関してはできない。木材生産活動の重機のオペレーターなどに関しても従事させられないという説明を受けた。そのため、企業によっては実習生の受入れが少し難しいところがあると感じている。

委　員）　林業以外の職種もやって林業にも携わるというような、季節労働ではないが、例えば富士山周辺だったら富士山関係の観光をやっていて、観光の季節以外には林業をやるなどの方法があり得るのかと思ったのだが、その辺りはどうか。

林業にだけ関わるのではなく、ほかの産業から手伝うなど、仕事は１つの時代ではもうないから、それぞれにやってもらうことはどうか。昔で言う、農家に手伝ってもらうというようなものは成り立つのか。

出席者）　現状、季節雇用ではないが、弊社も造園業から、冬季は庭づくりでの仕事がなかなかないということで、もう何年も前から２社から手伝いに来てもらったりしている。似たような産業であれば、そういった形で協力し合うことが可能だとは思う。

委　員）　立ち入ったところを聞くが、雇用や保険料などの話で、林野庁のホームページで見ると、どうしても日給月給の会社が全国的に多いというデータがある。令和４年度は、６６％がいまだに日給月給、出来高制ということで、雨の日や休日は給料が入らない状況があるかと思うが、そういうこともあって若い人たちが入りにくいということが山梨県の中でもあるのか。給料のことだからどこまで聞いていいのか難しいが、もし答えられる範囲であれば給料のこ

とを教えてほしい。あと、年収について、全産業では令和４年で４５８万円が平均だが、林業に関しては３６１万円ということで、大分差がある。そういうことも雇用に響いているのか。採用のときに、そのような話があるのか。

出席者）　当社は日給月給である。私が代表になって１年半ぐらいたつが、２０代から５０代の社員がおり、２０代の子は高卒である。高校を卒業して４年目、５年目ぐらいの２２才ぐらいである。実際、ホームページをつくったりしたが、やはり待っていても来ないので、例えば地元の高校などに直接顔を出して、先生といろいろな話をしながら、林業の魅力も伝えていって、「夏休みなどに現場を見に来てほしい」などと伝えている。夏は草刈りなどがメインになるが、うそを言っても仕方がないのでつらい仕事だと伝えると、やはり少しためらった様子になる。

つらいものはつらいが、つらい中でもそれ以上の魅力を感じてもらう必要があり、それを伝えなければならない立場だと思う。給料や休日などの問題はあると思うが、「林業はすごい」「林業はかっこいい」というところから入ってもらいたい。実際に仕事をやりながら思うのは、私たちが今植えているものは次の次の世代の木であり、自分が植えた木を実際には切れない。私たちが今切っているのは、先代がしっかり植えてきたものを切っていることになる。林業というのは単発の仕事ではなく、本当に長い目で見る産業なので、そこも魅力の一つだと思う。どこにやりがいを感じるかというのは個人の話であり、年収や休日というのは今の若い子たちには重要なポイントだとは思うが、それが全てではないという気はしている。

出席者）　弊社は、社員全員が月給制である。福利厚生、保険、退職金、あとは売上げによってボーナスを上げたり下げたりはあるが、そういうこともやっている。ただ、今の若い子に話を聞いたことがあるが、給料より休みがあるほうがいいという子も結構いた。新聞などで最近は大卒３０万円という情報が入ってくると、比べたりすることはあるとは思う。そのため、弊社では、今、完全ではないが休みを週休２日、隔週でやっている。富士北麓は雪が降るので、この時期は少し休みを多めにしたり、完全に週休２日にしたりなどしている。

委　員）　皆さんは切った木をどこに出荷しているのか。今、様々な形で出荷先がいろいろあると思う。各地域で、売り先がどこなのか。

出席者）　弊社では、南部町にキーテックという会社があるので、そちらにメインで木材を納めている。樹種と物によっては三重に出したり、あとは静岡に出したりしている。用途と金額にもよるが、いろいろなところに出すようにしている。建築用材のメインの取引先としては、キーテックである。あとはバイオマス用の燃料用チップにする原料については、大月が自分の近場になるので、そこへ納材している。

委　員）　この間、視察をしたのだが、甲斐市にバイオマスの発電所ができた。少し手間はかかるようだが、そこに出荷している人もいるのか。出していないようだ。それから、伐採から植林をして、それで下草刈りまでやっているという業者はいるのか。これもいない。苗木の話も

出していたが、皆さんに供給する苗木をつくっているのか。

出席者）　そのとおりである。県有林でやっている。

委　員）　何の苗木なのか。

出席者）　全般をつくっている。メインはカラマツや杉をつくっている。あとは広葉樹のナラや、イベントで山桜、紅葉などである。

委　員）　最近、カラマツや松はあまり需要がないという話を聞くが。

出席者）　今、キーテックの合板のメインがカラマツである。アカマツは松くい虫の被害がすごいが、アカマツを切ってカラマツを植えるというわけにはいかない。後世に松を残さなければならない。

委　員）　杉はあまりないのか。

出席者）　今、花粉症対策で杉を切っているので、その更新のため少花粉の杉を種のある限りまいている。ヒノキも同じような流れで、少花粉のものをつくっている。

委　員）　これほど若い人たちが取り組んでいるというのは本当にすばらしいことだと思うし、地域おこしにもなる。先ほど●●さんが、観光とつなげたというお話だったが、どのようなことで観光とつなげるのか。

出席者）　ＤＭＯの皆さんと一緒になって、環境教育というよりは、本当に泥臭い林業に観光客を巻き込んで実際に体験をしていただくというモニターツアーを、おととしは計１０回開催して、結構好評を得た。

委　員）　いろいろ意見を承った。税金の使い道なども含め、何か提案があれば、議会でもいろいろ配慮できたらいいと思う。

委　員）　スマート林業を推進している中で、通信や電波が弱いというところは、確かに言われてみれば当たり前の話だと思った。

一番は、先ほどのお話のあったように、林業をやめたら困る人がいるというところだと思うが、そこは我々としても林業業界の皆さん自体がいなくなってしまったら困ると強く思っているので、一緒になって少しでもいい方向になればと思っている。

先ほど苗木の話で、ヨーロッパ方式の導入というものがあったが、それはどういう方式か。

出席者）　今までは畑で野菜のようにつくっていたが、コンテナ苗と言って、育苗ポットを使ってつくる方法である。これまでは、畑で作るため根っこごと掘って移植するという形であり、休

眠期でしか移植できず、他の作業もある中で、その時期でしか植林できなかった。しかし、育苗ポットでつくることで、根っこに自分で生きるだけの土を付けることによって、植林の時期を少しでも長くできる。切った端から植えられるという一貫作業システムを、時代の流れで導入している。

委　員）　苗木をやっているのは、この中では●●さんだけだが、各社で分業をしているのか。それぞれが苗木を育てて植えるよりも、業界としてはそのほうが効率がいいということでやっているのか。

出席者）　自分たちがいろいろやった感想、手応えとしては、苗木をつくるには苗木をつくるための技術があり、一人前につくれる、独り立ちできるまでに１０年から１５年かかり、やっと出荷できる。造林をやるにしても、山へ行ってこういう間隔で植えて、こういうデザインにしてという技術が必要である。素材生産で丸太を切るという分野においては、設備投資をし、その機械代を回収するために丸太屋は丸太屋で生きていかなければならない。素材生産で使う機械は、苗木生産では使えない。苗木もポットの設備投資や、大きいところはハウスをつくったりするが、全部やるとなるとどれかがおろそかになったり、注文に応え切れない。規模を大きくすれば多分できるかもしれないが、零細のレベルでは小ぢんまりとやって、どれが利益になるかと言うような、少し難しい経営の問題となる。

委　員）　先ほど、苗木は女性も働きやすいという話や外国人材の話、農林大学校の話もあったが、県としても人材育成を応援できないかと考えている。どういう人たちが欲しいか、要望があれば聞きたい。

出席者）　山梨県農林業大学校ができたので、そういったところを活用したり、県内だけでなく、県外の東京や神奈川からも人材を確保して、県内で働けるような人を育てて、かつ県内事業者にも雇用が生まれればいいかと思う。

あと、女性に関しても、個人的には増えていってもらえるのが一番いいと思うが、トイレなどの問題がなかなか難しい。そういう面を気にしない人もいるかもしれないが、逆に経営する立場の人のほうが気にしてしまうと思う。その辺りは難しいのかもしれないが、女性は活躍してほしいし、林業も間口が広がればという思いはある。そのため、できるだけ事業体としても女性が活躍できる環境をつくり、働きやすい作業等で活躍してもらえたら一番いいと思っている。それが各事業体、個人だとなかなかアピールが難しく、そういったところも含めて、山梨県は森林、特に県有林が多いので、若者も女性も含めてそれをＰＲできればいいと思っている。

出席者）　当社は伐採中心でやっているのだが、やはりプロになるまでは１０年から２０年かかる。今５０代、６０代のプロたちが今後１０年、２０年すると引退していってしまうので、やはり若い人が入ってきて教育していかないと、最悪の場合、この業界は途絶えてしまうというところが心配である。若い世代の人に来てほしい。

委　員）　昨年２月にやまなし森林整備・林業成長産業化推進プランが改定され、その中で林業の成長産業化の推進ということに関し、幾つか項目がある。先ほど、機械導入などに役立つ補助金の必要性もあったが、例えば、それ以外にも、県産材を供給する体制、サプライチェーンの構築、県産材の需要の拡大、路網の整備など、幾つかそういった項目がある。そういった分野において、県に対して、もう少しこういうところに力を入れてほしいなど、あったら教えてほしい。

委　員）　もし今日話せなくても、私はこう思うというものがあったら、皆さんの意見をまとめていただいて、ぜひ、文書で頂きたいと思う。

出席者）　設備投資をして、少ない人数でどれだけ作業を簡略化できて、安全で人数をかけずに利益を上げるかというのが大事になるのではないかと思っている。

委　員）　林業を行う上ではいろいろな資格も必要かと思うが、そういった資格の取得は、今それぞれの事業者が負担しているのか。そういう資格取得において公的な補助が必要という考えなどを教えてほしい。

出席者）　今、緑の雇用という事業があって、林業に入って１、２年目の子が一緒に研修して、そこで資格を取ってくるという事業がある。また、林業大学校の学生は、それなりの資格を学校で取ってくる。

それから、若い子たちは２トン車までしか運転できないので、大型免許を取得できればありがたい。高所作業車などの資格まではさきほどの研修で取らせてはもらえないので、そういう資格も取れたら仕事の幅が広がるので、ありがたい。

出席者）　サプライチェーンの話が出たが、弊社は南部でやっていて、杉・ヒノキがメインの樹種である。私は大学卒業してから実家に入る選択肢もあったが、愛知県の市場で４年ほど働いていた。そこの市場には、当然、山梨県の木もあり、東北から九州までの杉やケヤキなど、いろいろな樹種がそろっていた。当時はウッドショックでぐんと値段が上がったときだった。今、それがまた下がっている。今、例えばヒノキの４寸角の柱材が１本大体２千円ぐらいである。２０年前は、その倍の４千円だった。一方で先ほど●●も言ったように、運賃は燃料高騰で上がっている。

木が若いときから手入れをして、手間をかけて四方無地の柱をつくっても、今、すごく安い。昔の人が枝打ちして一生懸命やってくれたものが、私たちが切って出しても並材と一緒ぐらいになってしまう。太ければいいという時代ではない。もう使う用途もない。結局そうなってくると、どちらかというと質より量を重視する方向にシフトしてしまう。だから、機械化も当然していかなければならないということになってくる。

価値のあるものは価値のある値段で売るべきだが、今はよくない感じになってしまうので、そこはやっていてもどかしい。キーテックからは合板、要はＢ材と言われるものが、今は主体になっている。Ａ材とＢ材の値段が変わらないような状況になっている。ということは、例えばハーベスターで造材するときに直材を取るのは当たり前で、曲がっているものではな

く真っすぐな木を取るのだが、それを見極める技術はほとんど今は必要なくなっている。B材でよいという考えがあるので、少し曲がっていても構わない。そうであるならば、枝打ちせず全部切ってしまえとなる。だから、量をこなさなければならない。１日３０立方しかできなかったが、今は５０立方、６０立方など、倍やらないと生産性が取れない時代になっているので、そこは時代に合ったやり方を考えて切っており、苦労している。けなしているわけないが、枝打ち材について悲しいと思っているのが現状である。

本当は、南部町で切った木は南部で製材して使ってもらうのがベストで、私が入った２０年前には製材屋がたくさんあったが、ほとんどなくなってしまった。個人でやる人もいなくなった。今は南部の森林組合が市場を構えているので、結局、近いからそこに出す。物価が上がっている中でなぜ木材だけが上がらないのか悲しくなるが、でも、その中でもやっていかなければならないので、みんなで協力してやろうという感じでいつもやっている。

出席者）　サプライチェーンの話の関連だが、今、山梨県の県有林も含めて、素材のメインでやっている樹種はカラマツだと思う。県内で利活用するとなったときに一つ重要になってくるのは、無垢材としての活用だと思うが、カラマツは無垢で使う文化があまりないので、結果として切っていくことで合板利用、もしくは県外に回して集成材に利用するため、無垢として使えない。

地域内でお金を落とす仕組みとして、地域内のサプライチェーンが非常に重要だと思う。弊社に関しては、１社だけはカラマツの無垢材を使ってくれているので、そこにしっかりと供給することで地域内のサプライチェーンができているが、それ以外の工務店関係は全く興味を示してもらえない。

そのため、今後の県産材の活用を考えたときに、カラマツを集成材や合板以外にも地域内の工務店に使ってもらえるような仕組みづくりも、今後は重要になってくると感じている。

委　員）　非常に御苦労されている。今まで親御さんたちがやっていて、それで２代目、３代目ということでやられていると思う。木の値段がなかなか上がらない中で、世代が変わってもっと事業を拡大できるのかどうかといった部分について、いろいろ不安があるとも思うが、その辺りについてはどうか。先ほど、やめたら困る人がいるという言葉が非常に心に刺さった。４５歳以下の方が青年部をされているが、そういったことについての考えはどうか。もちろんフォローしていかなければならない立場であるとは思っているが、ざっくばらんに言ってほしい。家族でやられているところは従業員を入れたり、世代が変わってもどんどんやっていこうなど、そういう考えだとは思うが、その辺りについてはいかがか。

出席者）　当社は４代目で、祖父から始まって、父、おじ、自分の代になった。運よく男が生まれて代々つないできたが、自分の子供は今のところ女の子だけで、どうしようかとまだ考えている最中というのが正直なところである。勝手な思い込みかもしれないが、私がやめることによって地元の鳴沢の林業がどうなるか、やはり守っていかないといけないというのは実際ある。ただ、どのような形で守っていくのか、まだ決め切れていない。

委　員）　前向きにいろいろ考えていると思う。ただ、これから３０年、４０年と、自分が年を取っ

たときに後をどうしていくのかということを、今のうちから考えているのかどうかを聞きたかった。

出席者）　たくさんもうかればぜひやっていこうというところではあるが、設備投資で借金をつくったり、いろいろなことを考えるとどうかというのも正直ある。

委　員）　もう一点、今、鳥獣害の関係で、山に入ると熊などが冬眠していなかったりして、いろいろあると思うが、その辺りの対策については何かしているのか。例えば、狩猟免許を持っているなど、そういったものはあるのか。

出席者）　鳥獣害に関しては、昔と今の森林の環境が全然違う。昔は、まきを使うためにみんな山へ入ってやぶこぎをして、切ってきたらまきを使って、山の中が明るかった。だから、人が住んでいるところと動物が住んでいるところの境がきちんとしていたのが、今は手入れがされなくなってしまい、境がうやむやになってしまった。動物たちも地球環境の変化で餌がなくなって、人家で果樹を取ったりということがあると思う。

そのため、鳥獣害の対策をするのであれば、例えば、ただの森林整備ではなく、里山を整備することで、人間と動物の区域の明確化を行ったほうがいいと思う。幾ら柵を作ったところで、柵を破ってしまう人もいるし、動物が壊してしまったり、昨今の異常気象などがある中で、壊れてしまえば当然補修にもお金がかかる。そうであれば、そういったハード面の対策も必要だが、里山を整備することによってすみ分けるということも大切なのではないかと、個人としては思っている。

※山梨県林業会館にて意見交換会を実施した。